



新板
繪入

自笑楽日記
三卷

特別
3548
3



門 へ 13
號 3548
卷 3

三物居
松浦氏
藏書記

昭和三十一年
七月二日
購求

自來樂日記卷之三

自來樂日記

目錄

第一 子^て入^いる^まは^は情^{なさけ}の^かた^たり^た

そら^らか^かが^がさ^さが^が仍^{なほ}も^も理^りれ^れ玉^{たま}松^{まつ}

影^{かげ}を^をと^とと^と色^{いろ}れ^れ表^{うら}帯^びと^と志^{こころ}の^の程^{ほど}松

至^{いた}れ^れ娘^{むすめ}の^のあ^あら^らり^り一^{いつ}方^{ほう}名^な乃^の松

三物居

才二

姉と才とよく似たり二面鏡

歌めりぐりあふ忠孝乃會神

親けり生るも一れ兄弟の

家内が是れと口紙あくやれ蛤

金くくざん金受れ壽門

そまへにまてまの家の軍配

家督をばぐおの儀乃系圖

先供あつてちへ返る曲輪錦

① 手に入るる色ハ情の鶴

源孫の口別をそて世界と去大列みまのつとども何乃

はうる色を完絶くまへつとどらや。新車はあつとどを

見て後車のみしつとどとどと人小ま見しつとどその

ゆりまにほまが物来て文どと人ゆりもを御あつとど。情の

衆和指好要石めてうとどと。おれは乃ね風。これのふと

おひおひる式是のゆとどと。おやうとんを系傳は。おん

少て見ま客中供とま海もおれら。身をあへて。さるなり

三十一

寄方ふめて。それ目見るやこちうてけされく至悉み似る
 ぶもぎ。扱して疑いもかれゆ見女かんこあれくあめひ一
 らるぼ。さらばその板りうり。あハ葉十部をくゆわねとと
 さいくたをあら。人ねおほん事をともひり。こととらまこと
 今一たんまつゆさう。まじゆかしのあときびまつてつべも
 わるはトま事かうん。ひん人ぬ若方那林の内を後任吉州林
 乃ゆごことおめらねし。ヤとらうら。あ念もこととらとあやまこと
 何そとをいませんと二階とわにうして厚風をめぐせと。際を
 ち。葉十部あひみまやれた何のてふも見てはなみ入るが縁く
 ちてのりむ小純志のて際を葉十部をふあひ。際を葉十部
 ひごめてあひ。アさうら。あさのさうじとこととらまこととせし
 いとらとらう。のりゆ。さうとらとらとら。あつてあの。ろとわあか

なる風俗みながう。こら帯といてきんませうらとよを。
 ちをとらび志ざり玉極声とむくめ。あまんとぬぬの観音のあ像
 一寸ふめて。厨子あひぶ差の長そまると金ふんめてあく
 あるをいあおあるぐ。ほくまもど内かたりとらとら。ねのそあ
 の内内。揚ね蝶とあくと。あお。あまのあゆ。あをたうね。あおと
 ほじやとらとら。あやう。はとらとら。あけ。あけ。あけ。あけ。あけ。
 つらふはういかな。あま。あま。あま。あま。あま。あま。あま。あま。
 にもおとてあま。あまの。あま。あま。あま。あま。あま。あま。
 事あま。あま。あま。あま。あま。あま。あま。あま。あま。あま。
 父ととら。あま。あま。あま。あま。あま。あま。あま。あま。
 そとく。あま。あま。あま。あま。あま。あま。あま。あま。
 何あま。あま。あま。あま。あま。あま。あま。あま。あま。あま。



白杭の玉の
へしを
ぬきか
むいられ
あけら

とまらうまを
切らうまを

とらふまを
おのまを
積うとけり

蝶々
まを
まを
まを

まを
まを
まを
まを



上様
おのまを
まを

まを
まを
まを
まを

百姓めであるゆへ。その世を頼む所なき。何事をもつら。い母。又長考。後。の
 西。習。く。人。よ。う。これ。白。狐。の。玉。を。う。ご。う。ご。う。ま。あ。ふ。と。す。南。を。主。室。
 中。ん。せ。ー。史。父。と。不。對。向。も。せ。た。や。り。く。と。人。其。付。き。一。が。信。を
 敵。を。う。ち。て。父。の。下。一。壺。れ。一。壺。ふ。た。む。り。ん。と。い。は。く。か。と
 ら。ご。く。西。女。采。菊。戒。持。送。後。本。屋。こ。い。き。考。ま。ぐ。一。ま。ん。じ。あ。か
 儼。み。ま。人。金。銀。の。物。の。ご。く。に。こ。さ。い。つ。づ。つ。に。あ。い。ま。い。い。つ。な。か
 ら。け。も。志。ま。い。だ。と。ま。は。の。左。は。は。か。の。白。狐。の。玉。を。お。内。め。懸。が
 志。不。懸。思。ま。る。う。の。後。を。押。し。わ。を。せ。紙。張。の。紙。の。懸。に。これ
 月。う。ね。よ。史。の。一。通。市。自。家。に。名。判。と。ら。ま。い。と。と。改。よ。つ。ま。ま
 敵。を。う。ち。て。ま。り。と。あ。り。い。び。ま。か。が。女。と。は。ま。れ。何。と。と。て
 此。家。入。ま。い。ん。と。あ。り。い。に。亭。も。が。懸。より。は。ま。ゆ。り。は。と。め
 さ。ん。の。た。く。を。所。入。ま。い。か。い。ま。の。づ。れ。一。母。性。を。希。と

い。せ。が。れ。が。弟。を。男。も。あ。ら。う。に。志。慕。の。た。ま。け。あ。い。さ。た。う
 ま。ね。を。い。く。な。う。あ。い。ん。く。て。さ。い。ぜん。性。を。希。が。あ。わ。け。ら。ぬ。の
 時。ま。ご。ま。の。り。う。た。ん。と。あ。り。い。が。い。や。く。短。氣。め。て。い。わ。す
 わ。ら。う。と。性。を。希。が。玉。を。わ。い。し。ん。ゆ。ま。い。ゆ。ま。い。を。い
 け。ら。や。う。ご。く。と。あ。か。一。風。信。の。あ。を。わ。い。て。ゆ。ま。い。一。信。信。る。
 あ。の。た。う。ら。あ。が。そ。を。の。り。あ。い。に。あ。ら。う。に。性。を。希。と。中。ん。を。婚。め。
 う。ま。を。婚。め。と。め。い。ふ。う。げ。の。の。あ。け。ま。り。よ。う。い。ま。ん。し。と。さ。て。を
 度。を。信。に。ぬ。り。こ。う。う。が。婦。君。か。る。そ。ま。で。ね。せ。ぬ。い。を。せ。い。か。れ
 さ。の。長。考。を。希。の。親。の。飲。や。う。と。と。ら。う。と。は。を。を。ら。う。と。い。ま。い

三 金。了。げ。よ。金。堂。の。来。門。ね

揚。州。婦。君。不。魚。の。會。合。天。々。の。ほ。し。と。た。と。ら。う。か。る。魚。し。を。
 揚。州。婦。君。長。考。を。希。の。を。引。を。信。中。より。連。繩。出。し。く。と



こちらがまふまふ
お名だげ松松
こちらに松松
おんせきさる

お徳の
推して
るこつけ

蝶々
やうせき

推して
るこつけ



長老あつ
まむるねる

いとうあき
長老あつと
まむるねる
あきあき

相の園八
まげをさ
なてあげ

まげを
あげ

馬今よりいあふことと云は長考候ところやまりんとつとね松
のちりをふりまね男子なりとつとゞもすたりとつとゞも人の
内遣言は婦候と云作あられらにぞをそむけむと云と云
と云道程をながしつとゞもをぶつとゞもお母のぞと云と云
切らつとゞも人唐花のたはとほとてわぶと云と云と云と云
と云くらしんて。恋はつかもねゆとひとせんぬ。身をたぢ
にらつとゞも何でもよいと思案つと云松なりと云入せよと云
そこの婦がひめてつとゞもを。と云と云と云と云と云と云
雲にちげちげしたのまがよりやつと云と云と云と云と云
居るれに。が。松花のたはとほとてわぶと云と云と云と云
あはがと云と云と云と云と云と云と云と云と云と云と云
をほげちげと云と云と云と云と云と云と云と云と云と云

わをてとあらうと云松花あふ人のおかひらつて婦をいへ
おとてちまはあがとつとゞも。高恋。いへん。さうさ。中に松の
りのたぢと大松花のたはとほとてわぶと云と云と云と云
すこ出て。團りて人ひんとてふと云と云と云と云と云と云
ぢまふは。場を。雨。花。さうさ。せ。方。松。と云と云と云と云
そめ。花。と云と云と云と云と云と云と云と云と云と云
お。へ。む。と云と云と云と云と云と云と云と云と云と云
歌。を。と云と云と云と云と云と云と云と云と云と云
は。か。と云と云と云と云と云と云と云と云と云と云
來。を。と云と云と云と云と云と云と云と云と云と云
た。を。と云と云と云と云と云と云と云と云と云と云
お。と。と云と云と云と云と云と云と云と云と云と云

三ノ

大

此所^{こゝ}なる^{なり}諸人^{しよじん}も、^{たゞ}終身^{しゆうじん}存^{ぞん}する^{する}こと^{こと}西^{にし}上^{じやう}まわ^{まわ}り^りする^{する}こと
 中^{なか}にも^もあ^あら^らた^たり^りて^て、^さは^はた^たた^たり^りて^て、^しづ^づく^くと^とな^なる^るべ^べし^しき^きを^をま^まん^んう^うと^と
 度^{たび}に^にあ^あら^らた^たり^りて^て、^しづ^づく^くと^とな^なる^るべ^べし^しき^きを^をま^まん^んう^うと^と
 かる^{かる}れ^れど^ど、^あら^らた^たり^りて^て、^しづ^づく^くと^とな^なる^るべ^べし^しき^きを^をま^まん^んう^うと^と
 と^とを^をな^なす^すに^にあ^あら^らた^たり^りて^て、^しづ^づく^くと^とな^なる^るべ^べし^しき^きを^をま^まん^んう^うと^と
 ち^ちと^とあ^あら^らた^たり^りて^て、^しづ^づく^くと^とな^なる^るべ^べし^しき^きを^をま^まん^んう^うと^と
 ち^ちと^とあ^あら^らた^たり^りて^て、^しづ^づく^くと^とな^なる^るべ^べし^しき^きを^をま^まん^んう^うと^と
 ま^ませ^せい^いご^ご何^{なん}と^とい^いふ^ふべ^べし^しき^きを^をま^まん^んう^うと^と
 ば^ばく^くで^で、^しづ^づく^くと^とな^なる^るべ^べし^しき^きを^をま^まん^んう^うと^と
 ぐ^ぐと^とあ^あら^らた^たり^りて^て、^しづ^づく^くと^とな^なる^るべ^べし^しき^きを^をま^まん^んう^うと^と

さて^{さて}も^も、^しづ^づく^くと^とな^なる^るべ^べし^しき^きを^をま^まん^んう^うと^と
 ぐ^ぐと^とあ^あら^らた^たり^りて^て、^しづ^づく^くと^とな^なる^るべ^べし^しき^きを^をま^まん^んう^うと^と
 ち^ちと^とあ^あら^らた^たり^りて^て、^しづ^づく^くと^とな^なる^るべ^べし^しき^きを^をま^まん^んう^うと^と
 ま^ませ^せい^いご^ご何^{なん}と^とい^いふ^ふべ^べし^しき^きを^をま^まん^んう^うと^と
 ば^ばく^くで^で、^しづ^づく^くと^とな^なる^るべ^べし^しき^きを^をま^まん^んう^うと^と
 ぐ^ぐと^とあ^あら^らた^たり^りて^て、^しづ^づく^くと^とな^なる^るべ^べし^しき^きを^をま^まん^んう^うと^と

さげ人刀のりいすお付はう女房おうふちうさむとあはれ物を
 かたればかふいのり物のあまはくごんおうげめておのておのて
 水穿よりいごし余とたをけしあまやうぐねわをさるんか方
 もあきてあまうはまへおあがりとうをありの道中女おふも
 おくてあいうごとおがらんいさうをほけしするあとのい
 ぬんげきも感かして春花どののり物あはくまお相格か
 夢さかす世男めいさきて美且野のまへへ都ぞ目かよれ

三之巻 終

11/1429

